

# 第1学年 算数科学習指導案

日時 令和4年9月22日(木) 5校時

児童 男子2名 女子3名 計5名

授業者 教諭 三浦 奈美

## I 単元名

3つのかずのけいさん

## II 児童について

第1学年児童は、第1単元「なかまづくりとかず」では、10までの数の合成・分解について、第3単元「あわせていくつふえるといくつ」では、加法の意味と和が10以内の加法計算について、第4単元「のこりはいくつちがいはいくつ」では、減法の意味と差が10以内の減法計算について、第7単元で「10といくつ」の数の構成に基づいた計算の仕方を学習してきた。

児童は絵をブロックに置き換えて操作したり、言葉で話したりしながら、答えを求めてきた。また、加法や減法の計算を式に表して考えることも学習し、書き表せるようになってきている。指示内容を集中して聞くことや、ブロックの扱い方が苦手な児童がおり、自分の力で解く自信がないときには、活動に抵抗を示すこともある。どの児童も主体的に学べるような手立てや、個に応じた手立てが必要な段階である。また、学習の中で対話の場を設けているが、自分の考えが相手に分かるように話す話し方や聞く態度など、指導中である。

## III 単元の目標

3つの数の加減計算の仕方を理解し、3つの数の加減計算の仕方を操作や式を用いて考える力を養うとともに、3つの数の加減計算の式の表し方や計算の仕方を考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。

## IV 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 3つの数の加減計算の場面を1つの式に表せることを理解し、その計算が確実にできる。	① 2つの数の加法や減法を基にして、3つの数の加減計算を式に表し、その計算の仕方を数の構成や操作、図などを用いて考え、表現している。 ② 数量関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりしている。	① 数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

## V 着目させたい既習事項

① ブロックを合わせると足し算 (合わせて・全部で・増える)

③ 式・答え

② ブロックを取ると引き算 (取ると・残りは・減る・違いは)

## VI 指導計画（3時間）

	時	ねらい	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
3つのかずのけいさん	1	3つの数の加法の場面を1つの式に表し、その計算の仕方を説明することができる。		・思① 行動観察 ワークシート 分析	○態① 行動観察 ワークシート 分析
	2 (本時)	3つの数の減法の場面を1つの式に表し、その計算の仕方を説明することができる。	・知① ワークシート 分析	○思① 行動観察 ワークシート 分析	
	3	3つの数の加減混合の式の表し方や計算の仕方を、操作や図を用いて考え、計算することができる。	○知① ワークシート 分析	○思② 行動観察 ワークシート 分析	

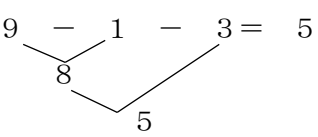
## VII 本時の指導

### (1) 本時のねらい

3つの数の減法の場面を1つの式に表し、その計算の仕方を説明することができる。

### (2) 展開（2/3）

段階	○学習活動・児童の反応	指導上の留意点
つかむ10分	<p>1 問題の把握</p> <p>○問題の場面から3つ数の計算になることに気付く。</p> <p>①も ねこは、なんびきのこっていますか。</p> <p>○問題場面を把握し、残った猫の数を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9匹乗っている。</li> <li>・初めに1匹降りて、次に3匹降りた。</li> <li>・残りは5匹になると思う。</li> </ul> <p>○答えは5匹になることをおさえる。</p> <p>○2回減っていることを、1つの式にできないか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間と同じようにできそうだ。</li> </ul> <p>2 課題の把握</p> <p>○本時の課題をつかむ。</p> <p>①か 2かいへるおはなしを、1つのしきにして、せつめいしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1コマずつ絵を提示し、2回減っていることをおさえさせる。</li> <li>・前時と似たような場面だが、乗るのではなく降りていくという違いに気付かせる。</li> <li>・前時は2回増えたことを乗った順に□+□+□=□と1つの式に表せたので、2回減る場面も1つの式で表せないか考えさせる。</li> <li>・どのように式に表せば良いのか、どう考えたのか説明することが課題であることを確かめる。</li> </ul>

	<p>3 見通し</p> <p>○自力解決のための見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の時間と同じように考えてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えは5になるように1つの式にすることと、その式にした根拠を説明できるようにする。</li> <li>・立式の説明をする時には、「なぜ、この式にしたか」というと。「初めに…次に…」という言葉を使い絵や問題と式をつなげて話せるようにさせる。</li> <li>・立式と説明ができた児童はブロックを使って計算の仕方を考えさせる。</li> </ul>
し ら べ る 15 分	<p>4 自力解決</p> <p>○自分で考えて式に表し、説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>9 - 1 - 3 = 5</math></li> <li>・ <math>9 - 1 = 8 - 3 = 5</math></li> <li>・ <math>9 - 1 = 8 \quad 8 - 3 = 5</math></li> </ul> <p>5 比較検討</p> <p>○全員で式の表し方を説明し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>9 - 1 - 3 = 5</math> です。なぜこの式にしたかという と、初めに9から1をひいて8。次に8から3を ひいて5になるからです。</li> <li>・なぜこの式にしたかという と、初めに9匹いて1 匹降りて、次に3匹降りて 残りは5匹になるか らです。</li> </ul> <p>○ <math>9 - 1 - 3 = 5</math> の計算の仕方を、ブロック操作を通して確かめる。</p> <p>□□□□ → □□□ → □</p> <p>初めに <math>9 - 1 = 8</math> 次に <math>8 - 3 = 5</math></p> <p>○計算の順と途中計算の書き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに <math>9 - 1</math> を計算して8になる。次に <math>8 - 3</math> を する。8を忘れそうだから書いておいた方が 良い。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに <math>9 - 1</math> をして8、次に <math>8 - 3</math> をして5 答えは5です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを使用し、問題を視覚的に分かりやすくしたり、説明や操作と記述が煩雑にならないようにしたりする。</li> <li>・どのように立式したか、その式で良いか聞くようにさせる。</li> <li>・式とお話、絵をつなげて考えさせる。</li> <li>・発表者の式で良いか問い返し、どうして良いと思ったのか話し合わせる。</li> <li>・分からなかったことや難しいことを共有することで考えを深めさせる。</li> <li>・ <math>9 - 1 = 8</math>、<math>8 - 3 = 5</math> と2つの数の計算を1つの式で表していることに気付かせる。</li> <li>・全員でブロック操作をして、<math>9 - 1 - 3 = 5</math> になることを確かめさせる。</li> <li>・計算過程の書き方を全体で確かめ、書く練習をさせる。</li> <li>・解く順の話形を示し、みんなで声に出しながら解き方を確かめさせる。</li> <li>・足し算のときのように、1つの式に表すことで問題場面を表せることに気付かせ、式化の良さに気付かせる。</li> </ul>

ま と め る 5 分	<p>6 まとめ</p> <p>○全部から減る順に立式し、前から順に計算することをまとめる。</p> <p>㊟ へるじゅんにしきにして、けいさんする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題から本時の学習過程をふり返り、増えた順に1つの式にした足し算と同じように、減った順に1つの式にし、計算できることをまとめる。</li> </ul>
た し か め る 10 分	<p>7 評価問題</p> <p>○3つの数の計算を解く。</p> <p>① <math>9 - 3 - 4</math></p> <p>② <math>7 - 2 - 3</math></p> <p>○ <math>7 - 2 - 3 = 2</math>のお話を作り、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>猫が7匹のっています。初めに、2匹おりました。次に、3匹おりました。残りは2匹です。</li> </ul> <p>○ <math>12 - 2 - 1</math>について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>12 - 2 = 10</math> <math>10 - 1 = 9</math></li> <li>大きい数でも計算できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算過程を書いて答えを求めるようにさせるため、①は全員で解き方を確かめながら解かせる。</li> <li>話形にそって、解き方を説明させる。</li> <li>立式の根拠を説明させる。1つの式で問題場面を表すことができる良さを実感させる。</li> <li>10のまとまりに帰着した問題の取り組ませることで後の減々法の学習につなげる。</li> </ul>
ふ り か え る 5 分	<p>8 振り返り</p> <p>○主体的に取り組めたか、関わり合いながら考えることができたか振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学習ができたか、伝わるように話したり、相手の話したいことを聞こうとしたりしたか、振り返る。</li> <li>感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よくできた」「まあまあできた」「できなかった」の3段階自己評価をさせる。</li> <li>「今日の学習で分かったこと・気付いたこと・次にやってみようこと」を発表させる。</li> </ul>

(4) 評価規準

【思・判・表】

数量の関係に着目し、3つの数の減法の場面を1つの式に表し、操作や図を用いて計算の仕方を考え、説明している。

【支援を要する児童への手立て】

指導者と一緒にお話や絵を確かめ、前から順に計算することに気付くように支援する。

VIII 板書計画

か 2かいへるおはなしを1つのしきにしてせつめいしよう。

ま へるじゅんにしきにして、けいさんする。

①  $9 - 3 - 4 = 2$

②  $7 - 2 - 3 = 2$

☆  $12 - 2 - 1 = 9$

9ひきのっています。

1ひきおりました。

3ひきおりました。

み まえとおなじようにできそう。

はじめに  $9 - 1 = 8$

つぎに  $8 - 3 = 5$

こたえ 5ひき

□□□□ → □□□ → □

$9 - 1 - 3 = 5$

8

5 5ひき